

【足立区地域自立支援協議会子ども部会】会議概要

会 議 名	令和2年度 第3回 【足立区地域自立支援協議会子ども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和2年11月24日（火）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 5階ホール
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	1 開会 事務局より 障がい福祉センター所長挨拶 2 議事 (1) 部会長挨拶 (2) 講演会 災害時の区民の安心安全はどう守るか～水害にそなえて～ 講師 災害対策課 下川係長 (3) 子ども部会課題について (4) 協議（講演会を踏まえて意見交換） (5) 次年度協議内容について 3 事務連絡
資 料	1 第三回子ども部会次第 2 座席表 3 第二回子ども部会議事録 4 パブリックコメントの実施について 5 障がい者週間チラシ 6 講演会レジュメ 7 東京マイライン/洪水ハザードマップ 8 リーフレット「分散避難してください」 9 リーフレット「災害時の発達障がい児支援について」
そ の 他	

【司会】

本日はご多用のところお集りいただきありがとうございます。

私は司会を務めます障がい福祉センター 幼児療育係長の勝田でございます。よろしくお願ひします。

一資料確認一

資料の確認をさせていただきます。今日はたくさんありますのでご確認ください。

1 第三回こども部会次第、裏に座席表が付いております。講演会の後に座席をこの形態に直させていただきます。

2 第二回こども部会議事録、皆さんに修正をいただいたものをお直ししたのになっておりますのでご確認ください。

3 ステープラー留めしているパブリックコメントの実施についてです。

4 クリップ留めしてある2枚セットのちらしで『知ってる？このマーク』という障害者週間のカラー刷りチラシとなっております。障害者週間のイベント情報というピンク色の用紙もついています。

5 ステープラー留めしている講演会レジメ『災害時の区民の安心安全をどう守るか ～水害にそなえて～』となっております。

6 『東京マイ・タイムライン』というブルーのケースに入っているものと洪水ハザードマップです。

7 『分散避難してください』という黄色のリーフレットがありますが、こちらは前回のこども部会でもお配りしたあだち広報の8月10日号を再構成したものです。

8 最後に『災害時の発達障がい児者支援について』という事で部会長の小谷先生の方から情報提供をいただきました。リーフレットを少し小さめにまとめてコピーし

たものになっております。

不足している資料等ございましたらお知らせ下さい。

それでは、お時間となりましたので、『地域自立支援協議会 第三回こども部会』を始めさせていただきます。

この度は新型コロナウイルス感染症の拡大が気になるころではございますが、感染症への対策を十分に行いながら、開催をさせていただくこととなりました。また、あしすと全館のエアコンの工事を1月下旬までさせていただいております。寒さ対策等ご不便をおかけいたしております。大変恐縮でございますが、ご了承いただければと思います。

本日もご出席予定でした、肢体不自由児者父母の会の小長井様とつくし幼稚園の寺山先生はご欠席となっております。

この自立支援協議会は発言等、会議内容及び発言者名などについて、後日議事録を公開いたします。また、議事録作成のため、録音をさせていただいております。ご了承願ひします。

それではまず、障がい福祉センター所長であります江連よりご挨拶をさせていただきます。

【所長挨拶】

皆さんこんにちは。先週は暖かい一週間でしたが今週は少し冷えて来ております。先ほど話がありましたように、少し暖房をいれておりますが、寒いときはお声かけください。

こども部会は前回から引き続き防災というテーマでご意見をいただけたらと思っております。足立区でも要支援者の避難についてこれから作っていくターンになってき

ます。

有事の際には3つのフェーズをちゃんと考えていかないといけないと思っています。

1つ目は、事前にどう予防していくのか。

2つ目は、発生時にどう避難するか。

3つ目は、なかなかこの視点は難しいとは思いますが、有事の後、皆さんが情報を集約していき、避難しながらあるいは自宅に戻りながらも、支援者間で情報共有しながら支援を継続していくフェーズ、この3つのフェーズの中で考えていかないといけないと思っています。

障がい別、大人と子ども、いろいろなカテゴリーの中でしっかりとご意見をいただきながら計画づくりをする、そういう重要なお意見をいただける場として活用できたらと思っています。

今日もコロナの中で短い時間集中して議論したいと思っていますので、忌憚のないご意見を頂けたらと思っています。よろしくお願いいたします。

【司会】

江連所長ありがとうございます。続きまして部会長からご挨拶をいただきたいとします。小谷部会長よろしくお願いいたします。

【小谷部会長】（東京未来大学）

皆さんこんにちは。今日はコロナで心配なお越しくござりますありがとうございます。大学のほうは相変わらずオンライン授業で、私も在宅勤務が原則になっておりますのでこもって仕事をしている感じです。

学生の状況は、結構こもってのほうが良い人もいます。発達障がいを持ちながらも周りを気にせずに授業が受けられるようになって良かった、という声も中にはありま

す。会いたい学生もいますが、逆に良かった面も見えてきた、というのが大学の現状です。コロナでいろいろ面が出てきていますが、それを良い方向に大学としても変えていかれればと思っています。

先ほどの話で、本当はこのような形のリーフレットになるのですが、毎年、国立障害者リハビリテーションセンターに学生を見学に連れて行ってしまして、先週もちょうど、外国人の発達障がいの支援のシンポジウムをやっていました。その時にいただきましたのでホームページでも閲覧できますが、資料に入れさせていただきました。今日関係があるかと思いましたがご一読いただけたらと思います。

今日は講義を楽しみにしております。2月に大学でも講義をしていただけたらいいのでどうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

小谷部会長ありがとうございます。

本日は足立区災害対策課災害対策係の下川係長より『災害時の区民の安心安全をどう守るか？～水害に備えて～』と題した講演をお願いしています。

書面開催と第二回のこども部会でいただいたご意見を事前に下川係長にはお伝えしてあります。ご意見を踏まえた内容の講演が実現できることとなりました。50分程度ご講演をいただき、その後10分程質疑応答の時間を取らせていただければと思います。

それでは下川係長、よろしくお願いいたします。

【下川係長】（足立区災害対策課）

皆さまこんにちは。災害対策課の下川と申します。

本日は災害についてお話させていただく機会を設けていただきましてありがとうございます。せっかくの機会ですので、何らかの持ち帰っていただくものがあるようにお話ができればと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

本日パワーポイントのスライドを用意してありますが、全く同じ内容をステップラ一留めの資料でも用意させていただいておりますので、どちらか良いほうで見ていただけたらと思います。ではよろしくお願いいたします。

講演「災害時の区民の安心安全をどう守るか～水害にそなえて～」

足立区総合防災対策室 災害対策課
下川 貴行氏（別紙資料参照）

（講演後）

【司会】

下川係長ありがとうございました。非常にわかりやすいお話で流れるようなご講演だったかと思えます。前回の部会の中でご意見をいただいた分も、お答えをお話いただけたかと思えます。

それでは質疑応答に移らせていただきます。

ご意見のある委員の方は挙手していただけたらと思います。いかがでしょうか。

【酒井委員】（うめだあけぼの学園）

うめだあけぼの学園の酒井です。非常に整理された情報、大変わかりやすくありがとうございます。

1点質問させてください。要支援者の支援の仕方について検討することを話し合ったとのことですが、足立区内69万人いる、そのうち支援者が何人いるか。高齢者と合わせると20万人くらいになってしまいます。20万人を全部区が行うのかというのが素朴な疑問です。全部を区では無理だろうなと思ったときにどんな対策が立てられるのか、たぶんこれから検討になると思いますが、そこで我々事業者や区民が出来ることをぜひ教えていただければということと、障がい者の中には手帳のない、はっきりしていない、特に乳幼児期の子供たちで支援の難しい子供たちの対応について、そういう方にどんな対応がとれるのか。今答えられる範囲の事、今後検討できる事を教えてください。

【下川係長】（足立区災害対策課）

ご質問ありがとうございます。今お話しいただいた内容についてですが、まず、区のほうで整理を進めているのは、避難行動要支援者名簿というすでに備えているものがございます。

これについては要介護3以上、身体障害者手帳1級2級、3級はタクシー券を使っている方、愛の手帳1度2度をお持ちの方、あと障がい支援区分3以上の方を対象として名簿を作っているものです。これに関しては水害時というよりも地震時、地震があった後に安否確認をする、主に民生委員が行うことを予定していますが、今お話しした対象の方で大体2万4千人の方が名簿記載の対象者となっています。お話があったように、当然ここに載ってこない方もたくさんいらっしゃる。いわゆるグレーの方ですが、抜け落ちてしまう方が出て来るかなと

いうところでございます。

まずはこの2万4千人の中で水害時にこの名簿を活用するという形になっていないので、2万4千人の中で例えば住んでいる所、マンション等集合住宅の高層階に住んでいる方に関しては、優先順位を下げたって除外しても良いでしょうという形で、そのまま避難しなければ命がなくなってしまう方というのを抽出した上で、絞っていった方に関して個別計画を立てていくと予定しています。

実際、名簿の中しか想定できていないので、今後、名簿にのってこない方についても検討を進めていかなければいけない。それに関しては多分、災害対策課は把握できません。福祉部も把握できない、衛生部で把握している内容も出てくると思いますので、そういったことも含めてどういった方を検討しなければならないかということで、新たに載せていく、そこの検討を進めていかないといけないと思っております。

実際お話があった通り、区だけで全部というのは現時点では千人程度の人数しかできないです。ただ、そこの部分を区だけでやろうとするとそうなりますが、それぞれの事業所や介護の事業者であったりとか、訪問看護であったりとか、いろいろなところと協力していきながらルールを決めていけば、その数はどんどん増やしていけるかと思っておりますので、より良い方法で決めていければと考えております。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会）

ありがとうございました。先日親の会から要望させていただいた内容のお答えが混ざっていて大変うれしく思います。

一つだけ、命を守ることが大前提ですが、

医療・病院とのつながりはないのかと感じました。地震、水害の時に怪我される方も必ずいまして、もちろん重症な方はそのまま病院に行かれると思いますが、軽症の方、常備薬を必要としている高齢者、障がい者、てんかん等々は2~3か月に1度お薬をもらいますが、今、医療機関では余分にお薬は出していただけないですね。薬がない時期に災害が来てしまうと、病院が機能していない中、薬だけもらいに行くことが果たしてガレキの中いけるかなと、そういう事も考えて重症、中等、軽症というところできちんと医療を分けてですね、対応して頂ける、ましてや中度の簡単な怪我とか薬の配慮とかは第一次、第二次避難所でも医療と連携して、ここに行けばもらえますよ、この手帳を持っていけばもらえますよ、という手段を考えていただけないか、病院と連携していく形を構築していただけないかなということを思いました。

【下川係長】（足立区災害対策課）

ご質問ありがとうございました。病院との連携に関しては、今、足立区医師会などと協議を進めているところではあるのですが、地震の時は医療機関自体も被災してしまう可能性がどうしてもあるということで、十分な対応をその中だけでできるかといわれるとなかなか難しい面もあるのかなと。地震で被災した他の自治体へ伺っても、例えば薬の関係では薬剤師が派遣されて、処方箋がない状況で必要な薬をお渡ししたり、ということを行っている事は現にありますので、普段からどういう薬を使っているかを当然控えておかななくてはならないだろうと思いますが、そういった対応を第一次避難所ではせざるを得ません。自宅にいても

同じ状況だと思います。お薬がもらいたくてももらえない状況が出てくると思います。そのあたりについて、どういった形で対応できるか検討していかなければならないと思っております。十分にできているところも一部あります。

避難所運営会議の中に、地域の医療機関がメンバーの一人としてはいただいているところも若干あります。地域の医療機関も避難所の運営に関わっていただくと非常にありがたいと思っておりますので、是非そういった取り組みを区内全域に広げられたらいいなと思っております。医療機関だけでなく介護施設とかにご協力いただいているところもありますので、各関係機関さんも避難所の運営に携わっていただくというところのお声掛けはしていきたいと思っております。

【小谷部会長】（東京未来大学）

1点は、医療的ケア児は電源がないと、呼吸器とかそういうお子さんが増えていて、自宅で介護されていると家の電源がない場合はどうしたらよいのでしょうか。

もう1点は、10月に防災推進区民大会というものにオンラインで参加させていただきました。災害の時に液体ミルクに限りがあるので、授乳のほうが良いとなり、その場合、各避難所に授乳室を用意しなければなりません。足立区は、今、どの様な準備をされているのか。この2点を伺いたいと思います。

【下川係長】（足立区災害対策課）

まず、医療的ケア児の関係ですが、人数も含めてどこに住まわれているか、しっかりと地図に落とし込んだうえで把握に努めているところです。そのうえで、電源について

は命に直結しますので、電源をどういう形で確保できるか衛生部とともに対応しています。

避難所には発電機はありますが、電圧が一定しません。医療的ケア児のための発電を考えるとベストではないらしいです。ないよりはあったほうが良いので、一つの選択肢としては避難所もありうるのかと考えているところです。

昨年千葉県の台風15号で広域で規模の大きい停電が起きてしまったことなどについては、足立区が同じような状況になった時には、医療機関などに優先的に電源車を配備することは、東京電力に要請する形をとってはいますが、現時点では電源車を配備したり電気自動車から電気をもらうこともできるようです。ただ、電気をもらうためには蓄電池を入れなくてはなりません。それはまだ避難所などに配備できていない状況なので、対策・対応はまだ後れを取っているところです。

液体ミルク、授乳室の関係ですが、液体ミルクはまだ各避難所に配備はできていないです。理由としては2つありまして、1つは、賞味期限が最長9か月位、粉ミルクは1年6か月のものを備蓄で入れるのですが、毎年毎年入れ替えて備蓄しているのが現状です。それが9か月になってしまうと、半年ごとに入れ替えないといけなくなるのでなかなかそれが難しい。もう1点は、温度管理が必要なこと。暑すぎても寒すぎてもダメというところもあり、今、各小中学校の備蓄については空き教室とか、場合によっては外に倉庫を建てて入れているので、液体ミルクの品質の保証ができないこともあり、見送っているところです。今後こ

の液体ミルクについては、品質の改良や、賞味期間の延びなどにより導入できるかなどいうところはありますので、進捗については注視していきたいと思っているところです。

授乳室については、水害時に関しては部屋が限られてしまうので可能であれば、更衣室や目隠しができるところを授乳室として使えるように、今各学校との施設の計画を立てていますが、その中で配置をさせていただいたり、場所のないところについてはプライベートテントはあるので、なかなか落ち着かないとは思いますが、そういった場所を設けたりというところで検討をしているところです。

【小谷部会長】（東京未来大学）

助産師会とはつながらないのですか。

【下川係長】（足立区災害対策課）

助産師会とは先行事例として、文京区が東京都助産師会と協定を結んで、いざというときに来てもらうという話があるので、参考にしながら足立区でもできるかどうか協議しているところです。

【司会】

ありがとうございました。ほかにご意見はありますか。

下川係長ありがとうございました。

それではお時間となりました。お伺いしたいことは尽きないかと思いますが、また部会の検討の中で疑問等がありましたら、下川係長にご連絡させていただいてもよろしいでしょうか。

【下川係長】（足立区災害対策課）

はい。もちろんです。

【司会】

ありがとうございます。それでは、講演及

び質疑応答を終わらせていただきます。

お忙しい中、資料作り及びご足労いただいた下川係長にもう一度拍手をお願いいたします。

それではありがとうございました。

～ 下川係長退席 ～

【司会】

それでは、委員の皆様で講演を踏まえての協議に入らせていただきます。

その前に、座席の位置を変えさせていただきますたいと思います。大変恐縮ではございますが、次第の裏にある座席表をご参考に座席を変更させていただければと思います。よろしく願いいたします。

～座席変更～

ありがとうございました。

ここからは小谷部会長にお願いしてもよろしいでしょうか。

【小谷部会長】（東京未来大学）

今回、書面も含めて3回目となります。今年度最後と伺いました。今年度のまとめも含めまして、こども部会としての意見を上の本会議にもっていくために皆さんの意見や感じたこと、次につなげていくためのご意見も伺いたしたいと思います。

おひとり2分くらいで話しをしていただけたらと思います。

【増田委員】（東綾瀬保育園）

東綾瀬保育園の増田です。水害に関してうちの保育園は、単独で1階しかない施設のため、垂直避難は全くできません。UR団

地の中にあるので、隣の号棟の3階ベランダまで自治会の方の誘導を受けて、全員で行き帰ってくるという訓練を行っていましたが、133人のこどもたちが、隣のベランダに行って雨風の中どうしたら良いのか、現実的ではないため、今年はどうするか職員に持ち掛け、避難所へ避難することを考えました。そして、年長児と小学校に行き、「ここが避難するところだよ」と知らせました。まず、どこまで集団を小さくするかが重要な問題です。どの段階で保護者に迎えに来てもらうかなどは決められないので、すぐ保護者に連絡できる準備をしています。タイムラインは施設長研修でも同じものをいただいたので、来年に向けて保育園のタイムラインを作ろうと話をしています。

来年にかけての課題は、来年から医療的ケア児の受け入れをモデル事業として実施することになっているので、それに向けて準備をしていくことです。

【小谷部会長】（東京未来大学）

区のモデル事業ですか。

【増田委員】（東綾瀬保育園）

そうです。

【小谷部会長】（東京未来大学）

専属の看護師さんがつく感じですか。

【増田委員】（東綾瀬保育園）

新たに入園してくるお子さんに必要な準備をしていきます。

【古川委員】（新田学園）

水害については、去年は新田学園の方が避難場所になっていました。洪水ハザードマップは初めて見ました。東京マイタイムラインは、子供たちと一緒に指導はしていますが、ハザードマップは初めて見て、新田学園は避難場所だけ赤いところだなと。

できたらスーパー堤防の白いところだったら良かったなと思いました。新田学園は屋上5階建てで避難場所としては広いです。去年、新田1丁目に住んでいる子供が避難所という事で新田学園に来ましたが、その後、避難のストレスで全身に発疹ができ、1週間くらい学校を休みました。知的には高いお子さんでしたが、それだけすごくストレスがあるのだなと自分自身のこととしても、教員としても、災害に対してはもっと考えていかないといけないなと考えさせられたと思います。

マイタイムラインは、各ご家庭にお願いして宿題にしていますが、保護者の方とそれを話す機会がなく、保護者の方がどれだけ意識が高いかにより、意見をしてくださる方も決まってしまうので、保護者会もありますが、難しいと感じています。

来年度の課題は、この会議はどのようなものかわからず、順番が回ってきたので出席しましたが、参加してみて障がいのあるお子さんに関わっているところがこんなにたくさんあると知れてすごく良かったと思っています。子供たちの将来、就職先や就職するためにどういう力を小学生のうちからつけていけばよいかを知れる場所として良いと思っています。

【小谷部会長】（東京未来大学）

小学校の時には見えなかったことが、酒井先生にお世話になった子が普通に学生をしていて、小さい時、問題児と思っていた子が17歳、18歳くらいになると、一時的には引きこもりのようになり通信制の高校に行くが、そこで目覚めてやっぱり大学に行ったりする。こども心理というので、自分のことを知りたいと思っているので大学で大丈

夫だったりする。集団はつらいが、今のよう
にオンライン授業になると、自分のことを
分析したレポートを書いてきたりする。逆
に子どもはわかりません。知的に遅れがな
いと、とくに卒論も立派に書けたりするの
で将来をぜひ楽しみにしてください。

【古川委員】（新田学園）

知的に高いお子さんで通常級からの転入
に限って、通常級で不登校になり、特別支援
学級に来て不登校がそのまま続き、なかな
か学校に来られないケースが多いと感じて
います。そういうお子さんたちも家の中で
学習できたりとか、将来やりたいことが見
つかれば人前に出なくても何か学べる手段
があると思いました。

【小谷部会長】（東京未来大学）

通信制高校はいいところがあります。

自分が小学校時代に自殺したかったから、
自殺について調査した子がいます。自分が
抱えていた問題を卒論にしてくる子も多い
です。

【古里委員】（花畑学園）

花畑学園のコーディネーターをしていま
す古里と申します。本校は今年度の4月か
ら知的の特別支援学校と肢体の特別支援学
校が一緒になって大きな組織となりました。
校舎も新しくなり、日々避難訓練をなが
ら、教員も問題点などを探しつつ改善して
います。施設も今までの備蓄の位置など場
所が変わっていたり、教員もいざ避難所
になる時には、どういう動きをしたらよいか
考え直したりしています。避難訓練ですが、
垂直避難は自閉症のお子さんとかを抽出し
ています。

とても広い学校なので知的棟の方に保健
室や企画室、校長室があり、知的棟が少し離

れている。校内に電話もあります、教員も
トランシーバーを持ちながら避難訓練して
います。

来年度について、花畑学園は足立区のセ
ンター校となっているので、コーディネ
ーターとして小中学校を回ったりして、発達
障がいのご相談をいただいたりしますが、
いろいろなお子さんがいて、いろいろな支
援が必要となります。来年度から高校に通
級が出来ます。それも含めてつなぎとい
うのが大切だと思います。

【小谷部会長】（東京未来大学）

就学支援の審査の時期ですが、今年
はコロナがあったので、就学相談も遅れて
いてすごく大変になっています。

【上遠野委員】（こども支援センターげん
き）

まだ終わっていない延長戦です。スター
トが遅れたので。学校もスクールバスを組
むのでギリギリの日程です。とても忙しい
後半となっています。

先生の配置も変わってくるので、都から
は生徒が何人かと調査が来ますが、まだ全
然決まっていません。学級数が決まらな
いと教員の定数が決まりません。例年は11
月ごろが締め切りで、スクールバスの手続
きですが、後半は詰め詰めになりそうです。

【五十嵐委員】（城北分園）

防災に関しては、分園の施設が平屋の建
物で垂直避難しづらいところです。今日は
次長もそのあたりが気になり聞きたいと参
加しています。隣の花畑学園さんの建物
があり、そこには2階3階がありますが、そ
ちらの方には直接避難できません。避難経
路も考えないといけないし、学園と連携
の問題もあります。

お子さんの場合は、親御さんもついてきているので何とか逃げられると思いますが、通所の方は、成人の方であり、車いすで移動するには今の建物ではエレベーターも一基しかありません。移動する距離、押す人間の確保等考えると非常に慎重に考えないとなりません。

次年度以降、先ほども東綾瀬保育園の先生のお話にもあったように、医療的ケアの必要なお子さんが普通の保育園に入っていくというと、当然、城北分園として医療的ケアができる通園として、どのくらいのニーズがあるのか、今後どうしていかなくてはならないか、幼稚園、保育園の受け入れが進んでいく中で、城北分園として考えていかなくてはと思っています。

【小谷部会長】（東京未来大学）

今、インクルーシブ教育というのがどんどん主流になっていて、親御さんも初めから同じ保育園に行かせたいというのがあります。

【五十嵐委員】（城北分園）

インクルーシブ教育については聞いてはいます。メリットはあると思っています。同じ年代で同じようなことをする、同じ世代と一緒にいるという事はとても影響が大きくて、隣の子が園庭に靴を履いて出ていくのを見て、私も靴を履いて行きたいなど、動機を強く持つこともあります。そういった意味では大変刺激的で、本人の成長を促すことでもあると思う反面、療育という側面にもプラス面はあるのではないかと、特に母子通園の中で親御さんとのアタッチメントを深めるとか、障害受容を促していくこともあるでしょうし、安心できるところと並行して、インクルージョンしながらも、少

し落ち着いてじっくりとやっていくことが大切なところとなるように思います。もしかしたらそれに対するプログラムとか、スタッフもそういう認識を持って、対応していくことも必要だと思っています。この場の皆さんの意見も分園の今後を考えたときの参考にできると思っています。

【小谷部会長】 せっかくですので、ご紹介いただいて、どういうお立場でどういうつながりかを。

（傍聴人）

【森永氏】（北療育医療センター城北分園次長）

4月に赴任しました森永と申します。五十嵐医療担当課長代理からこの会議の開催をきき、傍聴をさせていただきました。足立区の自立支援事業の理解を深め、皆さんとともに進めてまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

【小谷部会長】（東京未来大学）

バックグラウンドはどういうお立場ですか。

【森永氏】（北療育医療センター城北分園次長）

私は事務方の立場です。

【酒井委員】（うめだあげぼの学園）

うめだあげぼの学園の酒井と申します。よろしく願いいたします。

区の方でわかる方がいたら教えていただきたいのですが、区内の保育園で、認可保育園に防災の災害時の計画が立てられると思いますが、例えば認証保育所とか、無認可とか、保育ママとかどの辺のレベルまでが計画をきちんと立てているのでしょうか。

【増田委員】（東綾瀬保育園）

避難訓練は行われていて計画もあります。

区が指導検査を定期的に行っています。保育ママも必ず毎月行っています。決められた回数全部できているかは、区の職員が検査していると聞いています。

【酒井委員】（うめだあけぼの学園）

計画レベルで保育の方は小さい園でもしっかり計画があるのだろうと。児童発達支援、放課後デイはおそらく持っていないところが多いと思います。

区内の子供たちの安全を考えたときに、いる場所できちんと計画を立てることが重要なことになってくると思います。ちょうど今、厚労省のほうで来年の4月に向けて報酬改定チームが動いていて、報酬改定を色々検討する中で災害のことが取り上げられていて、発達支援センターだけでなく、事業所から放課後等デイサービスにおいても、計画を立案する事が義務付けられていく方向で今動いています。4月にすべてではなく、一定期間の移行措置はあるが、計画は作られていく方向にあるし、あったほうが良いに決まっています。事業所の方々は保育園と比べると、トップダウンでのきちんとこういう計画をしなければならぬとか、考えなければならない時の情報提供とかが、どうしても弱くなってしまうのが通所事業所です。今後、今日あったような話を事業所に渡していただけると良いです。

1つは、区として計画をサポートしていく体制を作っていってもらいたいと思います。その他の定員10名等、小さい規模で一生懸命やっていますが、こういう情報すら知らない。足立区はこれだけの情報を持っていることも知らない事業所があります。

先ほどハザードマップが配られているはずとありましたが、ちゃんと届いているの

か、届いたものを見ているのか、自分事としてちゃんとひらいているのか。命を預かっているということ。そういったことからきちんと確認していかないと、意識から漏れてしまいます。先ほど保育側のことをお聞きしましたが、保育は歴史もありしっかりしているので、保育ほどでなくても良いがサポート体制が取れると子どもたちを安心して預けられます。

実際に有事が起きたら、事業所ごとで判断をしていかなければならないと思うので、しっかり事業所ごとで考えていかないといいけないと思うし、そのための情報を区としていただけるは大変ありがたい。区としてできることはここまで、そこから先は事業所ごとで考えておかなければならないし、準備をしておかなければならない、ということを確認に言っていただけると、私たち事業所側でもしっかり考えていくことができると思います。今すぐということではなく、来年、再来年になるかなと思っているところです。

事業所ごとにお預かりしているお子さんたちのタイプが違うので、話題になっている医療的ケアの必要なお子さんから、年齢も相当違いますので、そのあたりを踏まえて事業所が判断できるようなバックアップができるといいと感じています。

【勝田係長】（障がい福祉センター）

障がい福祉センターの勝田です。

あしすとでは事業所をあつめてネットワーク連絡会をしています。数年前から避難の時、災害の時にどうしたらよいかという話は各事業所からもあがっていき、事業所に対応する内容の避難の仕方の研修も行っております。感染症についても、プロジ

ェクトチームを作りマニュアルを作りましようと言っているところで新型コロナウイルスの感染が始まり、計画が頓挫しているところです。まずは感染症をやり、次は防災をみんなで考えていきましょうということで、それぞれの事業所が勝手にやるのではなく、ある程度、足立区としてはこういうふうにとらえたいよね、というような方向性を出していきたいと思いますという話は、やはり事業所さんの中からも声がたくさん上がっているところです。下川係長ではない別の災害対策課の職員に来ていただいて、足立区の避難、この時は地震が中心でしたが、地震の時の避難の仕方であったりとか、送迎車に乗っていた時に地震がおきたらどうするかなど、具体的な話も出ていて、それぞれ意識は持っているが、こうしたらこう、というところまでは明確にはされてはいないので、また考えていけたらと思っています。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会）

災害の第一避難所が区の施設から同時にオープンがいいと思いますが、やはりそういう周知を福祉関係者等々、また区議会議員が出ていて、地域の福祉団体の方が出ていて、区民も出ている会議で言ってもよいと思っています。

自立支援協議会の設置がここですので、なかなか大きい会議に盛り込まれていないところはありますが、私はそういう場でどんどん言っていくことは良いと、所長、思うので是非、是非周知をしていってください。足立区のやっている良いことを。

あと、コロナ渦での障がい児の親や子どもが患った場合に、どういうふうに病院でやっていこうかということも、東京都から障がい児に関して降りてくると思いま

す。そういう話もちろんとしたほうが良いし、障がい児のほうはここができていないので、障がい福祉課のほうでもこれから対応していきますとおっしゃってくださったので、これからいろんな団体さんと意見を交換しながらやっていけばよいことで、着実にできていることをどんどんアピールして、周知していくことも区の役割だと私は思っております。

また、コロナ禍での親子の密着で虐待件数が増えています。全国的にも心理的虐待、身体的虐待というところも心配しています。

それから、中学校や高校などはやはり就労に関して実習ができないということで、延びています。いつもなら9月くらいに決まっている就労が、実習が遅れても対応してくださるとおっしゃっていますが、今年はどうにかなっても来年きちんと中3の卒業生が就労できるか、これだけ一般の方たちが就労ができない、解雇された、職を失ったという中で、障がい者の卒業生が、きちんと職に就けるかということも心配しております。

【高橋委員】（民生・児童委員協議会）

民生委員の高橋です。お世話になります。本当に申し訳ないのですが、意見とかが出せない状態です。

今日は防災の下川先生からのお話が聞けて、自分も今まで資料が家に届くごとに色々勉強しているのですが、再確認というか良い勉強になりました。

この会議に初めて参加するということに、どういう人たちがメンバーかもわからない状態で、常に勉強させていただいている状態ですのでお許してください。

【小谷部会長】（東京未来大学）

逆に、一般の方に広めていただけるとすごうれしいです。

【高橋委員】（民生・児童委員協議会）

集まりがあるときに話します。

【小谷部会長】（東京未来大学）

高齢出産が増えているので低体重児が増えています。240グラムとかで生まれている。ずっとNICUに入っていて、機械を外せないというお子さんも増えています。昔なら亡くなっていたお子さんも、今は医療が発達しているので生きていくようになったので、そういうお子さんが豊かに学べるように、機材などが必要になっていて、そういう現状を知っていただけると良いです。

【高橋委員】（民生・児童委員協議会）

はい。できることは上のほうに伝えていきます。

【日笠委員】（ネットワーキング）

ネットワーキングの日笠です。

お母さん方が、今年の台風の時に自分の子供が避難所で迷惑をかけるのではないかと、避難そのものを諦めたという方がいました。今日お話を伺い、私たちの立場でできることやお願いしたい事ですが、まず避難所にちょっと支援が必要な人がいます。と見えるようななにかとか、お部屋ほどでなくともちょっとクールダウンできるエリアがあるとよいと思います。

私たちの活動の中では、地域発達障がい理解を促す活動をさせてもらっていますが、災害という事を軸に、地域の町会の方とそういった子どもたちをつないでいく機会をもらえたらなと考えました。こちらの部屋で何人かいらしたり、発達障がいがかかる担当者がいるとよいと思います。

保護者の皆さんが集まる茶話会で、避難

所に自分の子どもを連れて行くとき、障がいの特性を伝えたり、サポート力を丁寧にまとめたりとか、そもそもお母さんたちが、子どもが動かなくなったりするので、自分の子どもをどういうふうにしたら、安全に避難所まで行く気持ちにさせて誘導させられるか、専門の先生に来ていただいて、共有する会にできるといいのかなと思って聞いていました。来年度以降も、親は進路とかに目が行ってしまうので、足立区でこういった協議会とかで出てくる課題に対してなんでもいいので、自分の立場で出席していただければ、何かしら持って帰れることがあると思います。来年もまたよろしく願いいたします。

【小谷部会長】（東京未来大学）

親は自分の亡き後が一番心配ですよ。だから、発達障がいの理解をみんなにしてほしいと思います。

【金子委員】（まっぼっくりツリー）

放課後等デイサービスまっぼっくりツリーの金子です。前回の台風19号の問題点についてですが、いろいろと改善がされているようなので少し安心しました。放課後等デイサービスは、足立区に40か所ほどあると思いますが、場所に慣れないお子さんがたくさんいます。避難しようとなった時に、そこに行けるかどうかがすごく大きくて、先ほどの話にあったように「ここが避難する場所ですよ」と言えるような機会があると、子供たちも安心してその場所に行けたりするのかなと思います。

水害の時は、そもそもご家庭からお子様をお預かりしないので、ご家族が避難場所に行くかどうかと思うが、お母さんとしては避難所に連れて行って、うちの子は騒い

でしまうかもしれない、という状況でやっぱり連れていくかどうか決断が難しいと思います。お母さんが安心して子どもを連れていけるような工夫や機会を、避難訓練としてやってもらえるとお母さんも安心です。

放課後等デイサービスの事業所も、横のつながりが難しく連携が取れていませんが、それぞれ困ってることはあるはずですが。避難訓練の時も、避難先に使わせていただけたらと見通しができ、私たちも安心して子どもを避難させられます。

報酬改定で防災のプランを立てるときに、報酬が下がらないためにプランを立てるだけにならないようにしないといけないと思います。保育園のしっかりしたマニュアルを私たちにおろしていただき、障がいのあるお子さんにもできるようなものをいただいて、自分たちでどうしていくかを工夫できたらと思いました。

【上遠野委員】（こども支援センターげんき）

こども支援センターの上遠野です。いつもお世話になっております。

防災関係のテーマからいきますと、私共げんきも避難所として位置付けられることになりました。まだ詳細は全然詰まっていません。げんきは5メートル水没になると思うので、5階建てですが、1階2階は使えないでしょうから、3階から5階のスペースを活用してとなる予定です。二次避難所的な使われ方になる予定でして、そのあたりの体制を一刻も早く作っていかないといけないと本日改めて思ったところです。また、詳細等いろいろ決まりましたらよろしく願いいたします。

先ほど不登校のお話や、発達障がいのあ

る学生さんが、リモートで授業のお話がありましたが、足立区も今回のコロナの関係で、国のギガスクール構想がいよいよ実現できる感じになってきています。令和3年度には、児童生徒皆さんにタブレット1台ずつ配備される状況になってきました。そういうものを活用して、先生方が連携して協力していただきながらと思いますが、不登校気味の子どもたちも、家庭で学習ができるような支援の仕組みなどを作っていたらよいと考えているところです。今、ICTの活用計画も全体で作っていて、今年度中にはまとめたと思っています。また機会がありましたら情報提供していただけたらと思います。

【江連所長】（障がい福祉センター）

あしすとの江連です。

今、災害対策の3つのフェーズの中でお話ししたいと思います。

1点目は、予防の観点で何ができるか。今年度福祉管理課で要支援者名簿2万4千人を対象とした名簿の中から、各ご家庭の状況の意向確認をさせていただく予定になっています。

この中でご自宅が平屋なのか、上層階なのか、家族が支援できるかどうか。まずは事前調査をしています。国の方から求められているのは、その後の個別支援計画です。各ご家庭がどうするのか、しっかりとケアプランを作る作りこみの集約したものでこれからどうするかを決めます。どう作りこむかどの情報を入れていくのかこれから考えていきます。

【小谷部会長】（東京未来大学）

対象は何歳からですか。

【江連所長】（足立区手をつなぐ親の会）

子供から大人までの各障がい者で基本的には手帳がある方です。

肢体不自由1級2級、要支援者名簿愛の手帳1度2度、区分4だったかと思います。区の中で決めているので、そこを作りこんでいきます。先進自治体では、すでに作られているところもあります。

有事の時には、その情報を関係機関で共有していきます。個人情報でもそこは共有してもよいという法律の定めがあるのと、同意があれば、事前にそれを共有できるという二段構えの法整備になっています。同意があれば、地域の中で民生委員、自治会であったり避難所でこういう方が来ますよ、と地域の中で更新できると学校に避難したいけど行けない方も減るのではないかと。共有できるとよいと思います。

昨年避難所に行き、実際現場に行き指揮しました。発達障がいの方が来ていました。私は認識があったので、個別に教室を分けて、そこで一晩お過ごしになった方が何世帯かいた。ご高齢の方と障がいのある方を、少し離れた理科室にご案内したり、誤解がないように行えましたが、認識がない職員ではできないので、その辺も避難所で共有していかないと。避難所の訓練の中でできるとより良い支援につながっていくと思います。

2点目は、個別支援計画でどこに行くかが分かれば、有事の後にソーシャルワーカーが、その後どう支援を組み立てていくのか、安全の確認は支援者にとって必要なもので、安全確認するための根拠資料になってくると思います。支援計画の策定を共有しておく、その後の支援に役立ってくると思います。ヘルパーさんを依頼してい

るか、おそらくパニックになってしまうと思うので対応をしていかないとと思います。

【小谷部会長】（東京未来大学）

私もそういう情報は知らなかったので勉強になりました。ありがとうございました。では司会にお戻しいたします。

【司会】

前半の講演も盛りだくさんだったので少しお時間を超えてしまいましたが、ご参加くださいましてありがとうございました。

避難所運営会議の参加等、事業所ネットワークの中でも話が出ておりますので、江連所長のお話も含めて、下川係長にもお伝えし、ご意見がいただけたらと思いますので、少し宿題にさせていただけたらと思います。

今年度は今日で一度終了し、来年度に向けてのお話も何うことができました。次年度に順次つなげていけると良いかと思っております。

議事録につきましては、前回同様、一度委員の皆様にご確認いただいた後に、ホームページに掲載してまいります。よろしく願いたします。

では、以上を持ちまして、足立区地域自立支援協議会第3回こども部会を終了させていただきます。

本日はご出席いただきましてありがとうございました。お帰りの際にはお忘れ物などないようお気を付けてください。